

ある病院内学級に通っていた、宮越由貴奈さんが小学校4年生の時に、電池の学習をして書いた詩です。

『命』 / 宮越由貴奈

命はとても大切だ
人間がいきるための電池みたいだ
でも電池はいつか切れる
命はいつかなくなる

電池はすぐにとりかえられるけど
命はそう簡単にとりかえられない
何年も何年も
月日がたってやっと
神さまから与えられるものだ

命がないと人間は生きられない
でも
「命なんかいらない。」
と言って
命をむだにする人もいる

まだたくさんの命つかえるのに
そんな人を見ると悲しくなる
命は休むことなく働いているのに

だから、私は命が疲れたと言うまで
せいいっぱい生きよう



この詩を書いた4ヶ月後、由貴奈さんは、11歳で亡くなりました。

“ドキッ” としました。

私は、由貴奈ちゃんに胸を張れるような、「命」を大切にしている日々を送っているかと
自問して～そして反省しました。

休みなく頑張ってくれる「命」に感謝する心や、いたわりを持って生活しなければと……

この仕事をやっていて感じる事は～

無理して無茶して頑張る事より、無理してでも休む事が、難しい方が多い気がします！！

「転ばぬ先の養生」に気をつけて、「命」を大切にしている心～

寿命がつきる最後の瞬間まで、「命」を輝かせられるような人生を、送りましょう。

P.S.

今月、3月9日に、私は、49歳の誕生日を迎えます！！
この日は・・・（サンキュー）（ありがとうの日）です。
すばらしい日に、生を受けたと感謝しています。

「命」～大切にに使わせてもらいます。

「両親に」～感謝。

「家族に」～感謝。

「ご縁のある方すべてに」～感謝。

ありがとうございます！！

